

ディスクアレイのブランドを国内・海外で統一

エターナス 「ETERNUS DX series」の グローバル展開を加速

富士通は2009年11月より、大容量・高性能のミッドレンジシステム向けディスクアレイ「ETERNUS4000」及びエンタープライズシステム向けディスクアレイ「ETERNUS8000」を、それぞれ「ETERNUS DX400 series」「ETERNUS DX8000 series」とブランド統一し、全世界で販売を開始しました。

「ETERNUS DX series」は、世界180カ国でのグローバルな販売を強化し、ブランドを統一することで、システム設計から運用に至る質の高いサービスに対する信頼感と、万一のトラブル時にもスピーディーな対応を実現する安心感が、さらに周知さ

れるものと期待されます。

「ETERNUS DX series」は、2PBを超える世界最大規模のディスクスペースを提供し、最大8Gbit/sのファイバチャネルインターフェースや、2.83GHzクアドコアプロセッサの搭載により高い処理能力を実現。その上で、従来の「ETERNUS」の強みを踏襲し、データを保護する多くの仕組み、無停止稼働を支える機能を持ちます。

さらに、災害対策技術による事業継続性の強化、管理のしやすさや負担軽減によるTCOの大幅削減、環境負荷に配慮した技術を兼ね備えています。

その他にも、お客様のご要望にお応えし最適なシステム提供を支援する数多くのソリューションを備え、グローバル展開を加速します。

詳しくは ▶▶▶ <http://jp.fujitsu.com/about/journal/products-services/20100104/>

地域連携を円滑に進めるソリューション 中核病院間の連携を図り 地域完結型医療を実現する 「HOPE/地域連携 V3」

医療の現場ではいま、従来の病院完結型から地域完結型への転換が求められています。富士通はこれまで、診療所等で治療を受けている患者様を中核病院へご紹介する「前方連携」、中核病院で治療を受けている患者様を診療所等へご紹介する「後方連携」を中心に地域医療連携ネットワークの実現をサポートしてきました。今回、販売を開始する「HOPE/地域連携 V3」では大幅な機能拡張を行い、中核病院間での疾病毎の棲み分けや、救急の輪番等の運用シーンでもご活用いただけるソリューションとしてご提供します。V3では、複数の医療機関の診療情報を統合し、双

方向の連携が可能となります。連携可能な電子カルテも従来の「EGMAIN-FX/GX」だけでなく、中堅病院向けの「EGMAIN-NX」、診療所向けの「EGMAIN-CX」、SS-MIX※標準化ストレージにデータ出力が可能な他社製の電子カルテへと拡張しました。

また、診療情報の参照や紹介状等を利用するだけの医療機関については、インターネットへ接続できる環境があれば、簡単なセットアップのみでご利用になれます。

さらに、富士通の病院向け電子カルテシステムをご採用いただいている場合、連携先の医療機関に、医師の記載、オーダー、検査結果、画像、プロファイル等、ほぼ全ての診療情報を提供することが可能となり、地域医療連携を強力にサポートします。

※Standardized Structured Medical Information Exchangeの略。厚生労働省 電子的診療情報交換推進事業のこと。

詳しくは ▶▶▶ <http://jp.fujitsu.com/about/journal/medical/products-services/201001/>

富士通ジャーナルサイトもあわせてチェック！

富士通ジャーナルサイトでは、冊子でご紹介した製品の詳しい情報や、冊子ではご紹介しきれないお奨めの製品情報を毎週更新しています。ぜひご覧ください。

富士通ジャーナル プロダクト&サービス

検索

<http://jp.fujitsu.com/about/journal/products-services/>